議会だより たかもり

令和６年７月31日発行 No.160

UD FONT

親子龍はつなぐ 明日（あす）への息吹（いぶ）き

02　６月定例会 議案ピックアップ
04　請願・一般質問
12　委員会から報告します
14　追跡
16　みんなの声　上市田　赤羽（あかはね）　完一（かんいち） さん
　　吉　田　中塚（なかつか）なおみ さん

関連ページは
こちらから

質疑から見る 6月定例会 議案ピックアップ

令和６年６月定例会は、６月４日から14日まで開催されました。
本定例会では、専決案件４件・条例案件２件・契約案件８件・補正予算案件２件・人事案件１件が上程され、いずれも原案通り、承認・同意・可決しました。
その審査の中から、身近な事業に対する質疑を取り上げ報告します。

請負契約

令和６年度 下市田保育園大規模改修工事（建築）請負契約の締結について　４億1800万円

令和５年度に実施した耐震診断で建物の一部に耐震化工事が必要となりました。また調理室も現行基準に合わせる必要があり、大規模な改修工事をするものです。

契約先　株式会社三六組(飯田市)
工　期　令和７年２月28日まで

Q　新築にする場合の費用は。

A　最低でも５～６億円。

Q　工事開始が遅れている。工期通りに完了するのか。

A　当初から８カ月の計画で進めている。
新園舎で卒園式ができるように保護者からも要望を受けている。

請負契約

令和６年度 吉田新川配水池築造工事(土木)請負契約の締結について　２億1450万円

契約先 神稲建設株式会社(飯田市)
工期　令和８年３月27日まで

請負契約

令和５年度 社会資本整備総合交付金 サッカーグラウンド本体建設工事 変更請負契約の締結について　927万円

契約先　神稲建設株式会社(飯田市)
工　期　令和６年８月30日まで

Q　工期延長の理由は。

A　防球ネット建柱工法の変更による遅れと、それに伴うJFA公認取得の日程調整に日数を要した。

JFA公認取得には人工芝敷設前後の２回の検査が行われます。

請負契約

令和６年度 吉田新川配水池築造工事（機械電気）請負契約の締結について　１億5400万円

契約先　甲信商事株式会社飯田営業所(飯田市)
工　期　令和８年３月27日まで

人　事

固定資産評価審査委員会委員の選任について

再任　中平 正博 氏（山吹）
任期　令和６年８月10日から令和10年８月９日

令和６年度 一般会計 補正予算の主な事業　１億3621万円増額 総額78億621万円

民生費

低所得者支援及び定額減税補足給付金事業　１億2796万円

令和６年度、地方創生臨時交付金で、新たに住民税非課税世帯および、均等割りのみ課税となる世帯を対象に10万円。
こども加算として18歳以下の児童を扶養している場合、児童一人当たり５万円を給付します。
６月から行われる定額減税制度で減税できないと見込まれる方に対しその差額を支給するものです。

請負契約

令和６年度 道路メンテナンス事業/防災・安全交付金事業 橋梁架替工事請負契約の締結について　6534万円

城岸橋の工事における道路メンテナンス事業で車道の工事を。
また、防災・安全交付金事業で歩道を設置します。

契約先　有限会社小池興業(吉田)
工　期　令和７年４月30日まで

Q　歩道の計画はどうなっているか。

A　歩道部は有効幅(はば)が2.0mとなる。

請負契約

令和５年度 道路メンテナンス事業 橋梁架替工事変更請負契約の締結について　1546万円

城岸橋の工事における作業員の安全確保のため、仮設モルタル吹付工事(約400万円)、土中の石積みなどの取り壊し・運搬・処分(約200万円)、埋め戻し土約1,100㎥を吉田区民会館北側へ仮置き(約200万円)など10項目の工事増による変更契約です。

契約先　有限会社小池興業(吉田)

請負契約

令和６年度 地方創生道整備推進交付金事業 舗装修繕工事請負契約の締結について　5995万円

駒場から松川町境までの全長713.7mの道路を、５cm削りコンクリートを混入して強化します。（片側通行予定）

契約先　神稲建設株式会社(飯田市)
工　期　令和６年12月27日まで

Q　修繕の年数などに決まりはあるのか。

A　修繕の周期は交通量等により損傷具合も違うため、「何年に１度修繕する」ということはない。

委任契約

令和６年度 高森町公共下水道 高森浄化センター（機械設備・電気設備）の建設工事委託に関する協定の締結について　３億7470万円

委任契約先　※日本下水道事業団(東京都)
完 成 期 限　令和８年３月19日まで

Q　委任契約となっているが、提示された金額で委託しているのか。

A　日本下水道事業団法があり、その基準に沿って積算している。各業者への発注も事業団が入札で行い、補助事業などの国の会計検査にも対応している。

※日本下水道事業団とは
地方公共団体が出資し設立した地方公共団体と同等の法人です。下水道事業について、計画・設計・発注・施工管理・検査を受任しています。

（齋藤 記）

請願

6月定例会に提出された請願はいずれも14日本会議において、賛成多数で採択されました。

「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書

どの子にもゆきとどいた教育をするため、国の責任で必要な教育予算を確保すること。
教育の機会均等とその水準の維持向上のために必要不可欠な義務教育費国庫負担制度を堅持し、負担率を拡充すること。

「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める請願書

教育の機会均等と中山間地域における教育水準の向上をはかるため、へき地手当およびへき地手当に準じる手当の支給率について、都市部との格差がいっそう拡大している実情を十分把握しつつ、近隣県との均衡を勘案し、以前の水準に戻すこと。

（小川 記）

請願って何？

町の仕事について、もっとこうしてほしいという意見や要望を文書にして、議員をとおして町議会に提出することを請願と言います。
請願は、年齢を問わず誰でも提出することができます。また町だけではなく国や県にも提出することができます。

・高校生からの事例

伊那北高校２年生が環境改善を求める請願を伊那市議会に提出し、採択されました。

一般質問 議員発 町政へ

一般質問は年４回開かれる「定例会」で、議員が執行機関（町長・教育長等）に町政運営全般にわたり、事務の状況や今後の方向性に対する疑問点を質問し説明を求めることで町政の姿勢を明確にするなどの目的があります。質問権は全議員に認められています。

６月定例会では７名の議員が行いました。

5 **原　敏明**
バイオマスボイラーの黒煙は
保育園のご飯を町の提供へ

6 **木下啓爾**
水道事業の今後は

7 **北沢幸保**
子育て支援の自治体格差解消を

8 **齋藤天**
地域計画とは

9 **大島正光**
上下水道の安全性(耐震化)は

10 **佐々木昌**
専門人材育成・招致定着策は

11 **河合隆俊**
地域に根差した新たな取り組み

バイオマスボイラーの黒煙は

産業課長　**酸素量調整用のセンサーの故障**

原　敏明（はら　としあき）

▽**質問**

信州たかもり温泉のバイオマスボイラーが、真っ黒い煙を出していた。言われるまで黒い煙が出ていたのを止めなかったのは。

産業課長

令和６年５月11日に発生した黒煙の事象を確認する前日から、バイオマスボイラーの運転保守管理業務の一部を「株式会社信州のもり」から受託している「株式会社山杜（やまと）工業」が、試験運転を実施している最中に起こった。運転中は常時監視しておらず、時間をおいて現場を確認しながら試運転をしていたため、運転停止が遅れた。

両社の情報共有が速やかに行えず、この事象に対応できなかった。

原因は、ボイラーへの酸素供給量を調整する酸素濃度センサーの故障により燃焼不良となり、黒煙が発生した。

木質チップについて、製造工程等が変わっていないため、信州のもりから、水分量に変化は見られないとの報告を受けている。

対策について信州のもりからは、町、中央アルプスリゾート、信州のもり、山杜工業、納入元で遠隔監視しているＷＢエナジーと情報共有が密に行えるようにしていくとの報告があった。

今後のたかもり温泉の改修に併せて一部の施設の改修も検討している。

バイオマスボイラー木質チップ投入口

保育園のご飯を町の提供へ

教育委員会事務局長　**検討していくことが必要**

▽**質問**

朝食にご飯を食べない家庭が増えている。持参は、夏の暑さで傷んでしまう危険もあり、園で町がご飯を提供するのが望ましいと考えるが、いかがか。

教育委員会事務局長

食育ではなく、保護者負担の軽減として、子どもたちへのご飯提供を園で行うことを現在研究している。

そのためには、配膳台など施設への投資、食器等の検討や、給食担当のスタッフの増員も必要になる。また、自園での調理ではなく、業者による配達が可能か、なども、既に研究を進めている。

認定こども園ぱどまでは、ご飯を炊いて提供している。私立の園とは、公立保育園で研究を進めている状況を、園長会等で共有していきたい。

ご飯提供した場合、公費負担か、保護者負担か、についても、研究が必要と考えている。

子育て環境、保育園の環境の向上にむけて、前向きに検討を進めたい。

水道事業の今後は

木下啓爾（きのしたけいじ）

今年1月1日、能登半島で震度7の内陸地層内地震が発生し、現在も断水している地区もある。また、震災時の下水道施設の破損によるトイレの課題も明確になった。

今後の町の上下水道関連事業におけるあり方を「安心・安全な上下水道」と、その「財政的な課題」の側面から質問した。

▽質問

今後の30年に70～80％の確率で起きると予想される「南海トラフ大地震」についての上下水道の被害想定は。

環境水道課長

被災直後の上水道断水人口は1万1，410人、下水道の機能支障人口は1万160人と想定。

被災1週間後では、上水道断水人口は3，220人、下水道の機能支障人口は760人となる想定。

▽質問

現在、高森町では公共施設等総合管理計画に基づきインフラ整備を進めている。今後に予想される費用の概算は。

環境水道課長

今後10年間の主要事業は、堂所浄水場の耐震化と土砂災害対策、新川配水池築造工事、大丸山配水池の耐震化、山吹第9配水池の更新、その他老朽管路の更新等を計画しており、事業費で約23億円を見込んでいる。

▽質問

令和4年度の水道事業の純利益は約6，300万円、管路改修・更新に使える資金期末残高は、約9億4，000万円。過去数年間の純利益と資金期末残高の推移は。

環境水道課長

純利益は年々減少し、資金期末残高は、平成30年度以降、4億2，500万円ほど減少している。

▽質問

今後の水道事業では、「安全、安心な水道水の供給」と同時に「水道管の改修・更新」が重要業務となる。その費用も、億単位の財源が必要である。現時点は、楽観視はできない状況。

上下水道料金には、飲む水の代金だけではなく、地中の水道管の改修・更新の費用も含まれている。今後の水道料金の見直しについて、町はどのように考えているのか。

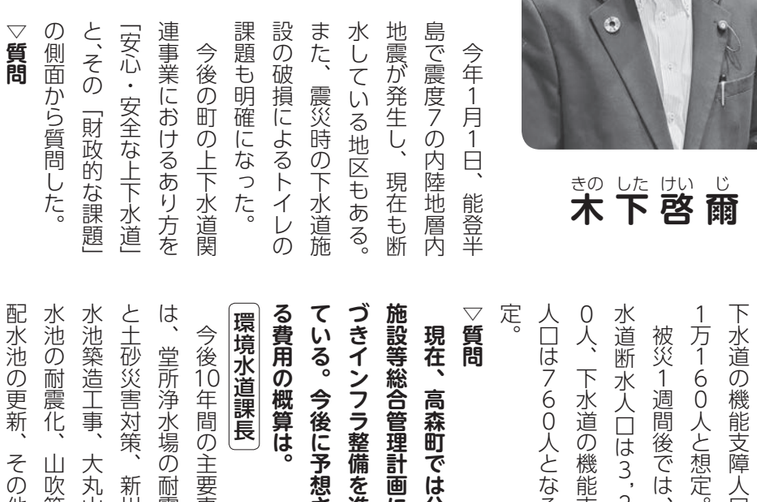
町長

令和4年度に水道事業基本計画の見直しを行ったことで、現状の課題や優先すべき事業の洗い出しが明確にされた。

また、最近は物価上昇や人件費の高騰から、維持管理や工事価格の上昇なども起きている。

このような状況の中で、実質20年以上据え置いて運営してきた水道料金については、現状に合った適正な原価計算を行い、今後の改築更新計画等、財政投資計画を明らかにした上で、水道料金の見直しについて検討したい。

町長　水道料金の見直しを検討する



“待ったなし”の水道管更新工事

子育て支援の自治体格差解消を

北沢幸保（きたざわさちほ）

学校給食無償化と、子どもの医療費受益者負担金500円を0円にすることは、当町における子育て支援の柱と考える。

▽質問

松川町では、保育園・小中学校で給食費の無償化を実施していて、当町と大きな格差があると感じている町民が多い。近隣自治体との格差についてどのように分析し、改善する考えなのか伺う。

教育委員会事務局長　**重要度や優先度により施策は異なる**

保護者の負担軽減というところでは、当町ではテスト代を長年公費負担（中学校で年200万円）している。各自治体が抱える背景や環境は、隣だとしても違いがあって当然。重要度や優先度により解決する順番も違ってくる。

▽質問

給食費無償化をするために克服しなければならない課題は何か。

教育委員会事務局長

財源の確保であり毎年約7000万円の町単独費用が必要になること、無償化することで保護者がどのようになることをゴールにするのかを研究する必要があること、無償化するのでは無く、働ける環境・所得を上げていく仕組みを町全体として取り組んでいくこと、高額所得の家庭にも一律に無償化でいいのか、などの議論が必要であり、国の動向も注視していきたい。

▽質問

飯伊14自治体の子ども医療費の、会計窓口で支払う受益者負担金はどのようになっているのか。

健康福祉課長

0円は5町村。300円は7町村。500円は当町と飯田市（飯田市は8月から300円）。

▽質問

当町の受益者負担金500円を0円にするのに必要な財源はいくらか。

健康福祉課長

令和5年度の実績件数は1万9184件で、受益者負担金を0円にした場合、当町の負担は959万円必要となる。

▽質問

なぜ当町は、受益者負担金を0円にし、完全無料化の予算措置ができないのか。

健康福祉課長

福祉の観点から考えると、この事業のみで議論するのではなく、持続可能なまちづくりのため、どういう支援が、いつ、どういう時に必要か、包括的に議論すべきと考えている。

松川町では保育園・小学校・中学校の給食費無償化が行われています　（写真は高森北小学校 給食の様子）

▽質問

令和6年度から、県や国は子ども医療費支援の拡充を行い、当町では580万円ほど町の負担が減る計算になる。この分を別の子育て施策の財源とするべきではないか。

健康福祉課長

福祉の観点から、受益者負担金のみで議論せず、全体で考えたい。

○要望

町は、賑わいの場所づくりが必要だと多くの税金をつぎ込んでいるが、少子化対策や持続可能な町にするためには、「医療・福祉・教育」を重視する政策に転換すべき。

地域計画とは

産業課長　10年後の「目標地図」を策定

斎藤　天（さいとう　ひろし）

国は、食料・農業・農村基本法において、
1、皆さんに食料を届ける力の強化
2、次世代へつなぐ、環境にやさしい農業・食品産業への転換
3、新たな技術も活用した、生産性の高い農業経営
4、農村・農業に関わる人を増やし、農村や農業インフラを維持するを示した。農業を守り、発展するため人・農地プランが始まった。その内容を明確にする。

▽質問

地域計画（人・農地プラン）とは。

産業課長

農業者が話し合いに基づき、地域農業における担い手（中心経営体）や、地域における農業の将来のあり方などを明確化し、10年後の1筆ごとの農地の「目標地図」を策定する。

農地が点在し、隣同士で違う作物を耕作していることが多く、集積化が難しいが、効率的に耕作を行えるようにするもの。

▽質問

メリット・デメリットは。

産業課長

メリットは、地域内で進むべき農業の姿、あり方を定め、視覚的に共有できる、担い手が意向を反映した経営拡大ができ、国県の補助や支援を受けやすくなる。

デメリットは、話し合いを重ねる手間や圧倒的に出し手と受け手の数に開きがある、権利移動の手続きに時間がかかる、今後の農振除外等の土地活用に影響があるなど。

▽質問

補助金などはどうか。

産業課長

市町村に対し、コーディネーター等の専門家の活用、農業委員会に目標地図の作成などへの支援。

策定後、目標地図に位置づけられた担い手への、機械・施設の導入支援、地域計画の実行に向けた取組に支援がある。

▽質問

町の構想は。

産業課長

住民と地域の将来像が共有でき、守るべき農地が明確になることで、そこに重点を置いた支援や土地活用の誘導が行えると考えている。

▽質問

まとめやすいように公図の提供などはあるか。

産業課長

産業課、営農支援センター「ゆうき」へ問い合わせいただくと、航空写真に地番が入ったものを無料で提供する。

○提案

地元農家、地域おこし協力隊、観光客、I・Uターン者などのコミュニティを醸成、農村留学やエネルギー・食料自給率向上などの方法の検討を。

無料提供される地番入りの航空写真

受け継ぐ子どもの明るい未来のために

上下水道の安全性（耐震化）は

環境水道課長　堂所浄水場と配水管の耐震化率低い

大島　正光（おおしま　まさてる）

▽質問

以前に一般質問した案件について、その後の対応結果をお聞きする。

「上水道の水源である堂所浄水場が、土石流と地すべりの災害警戒区域に指定されており、その対策を」との質問に対し町長から「土石流対策では、上流の沢に治山事業による堰堤の建設を県に要望。また、地すべり対策では、原因となる地下水の状況や対策について、今後研究していきたい」との回答をいただいた。

県への要望した結果や研究結果をお聞きする。

環境水道課長

堂所浄水場における土石流対策について、県に要望したが、県内には土砂災害警戒区域が2万箇所以上あり、県は、まずは住宅密集地など県民の生命を第一に考慮し優先順位を決定しているとの見解であった。また、地すべり対策について、当該地から地すべりの痕跡と思われる地形変状は確認されず、県のランクで一番低いCランクに指定され、地すべり災害の可能性は低く、対策の必要性は低いと判断した。

▽質問

堂所浄水場以外の水源として、町内で井戸を掘削し水源確保してきたが、町民生活に支障なく飲料水として利用できるようになったと言うことか。

環境水道課長

平成25年度より深井戸による水源開発を進め、市田の小滝沢・二の沢水源、山吹の大沢川水源の表流水水源と既存の深井戸水源、町全体で一日当たり5，400㎥の水源を確保できた。令和4年度実績では一日最大配水量は5，018㎥、一日平均配水量は4，003㎥だったため、十分に賄える水源を確保できたと考えている。

▽質問

堂所浄水場と送水管路の地震等に対する耐震化率をお聞きする。

環境水道課長

堂所浄水場は、現在の耐震基準で施工されていない。

今年度から強靭化対策として、耐震化・土砂災害警戒区域対策に取り組む計画である。

管路についての耐震化率は5・2%。全国平均値の15・6%、長野県平均値の12・3%と比較すると低い数値を示している。現時点の計画では、特に耐震性の低い継手を使用したビニール管の更新を優先的に行い、耐震管への更新を実施している。

▽質問

町の下水道管路の耐震化率をお聞きする。

環境水道課長

公共下水道・農集排の管路においての耐震化率は、ほぼ100%であると判断している。

現在の堂所浄水場

専門人材育成・招致定着策は

佐々木　昌（ささき　あきら）

健康福祉課長　専門員配置と施設との連携をめざす

▽質問
福祉関連の各施設連携、専門資格保持者の配置と現状は。

健康福祉課長
町の地域包括センターには、社会福祉士、保健師、介護支援専門員の専門職から構成されている。施設には、介護福祉士、社会福祉士、ケアマネ、看護師などが配置されている。町民からの相談や課題が複雑化しているため、専門知識、技術を有する人材の増員を行い、各施設や医療機関との連携を進める。

▽質問
中学生部活動における地域指導者の待遇は。

教育委員会事務局長
国の補助制度である部活動外部指導員として2名、町委嘱の部活アドバイザーの有志で、6名の方が従事している。謝礼は年間3万円。

▽質問
学校の顧問の先生の時間外部活指導の待遇は。

教育委員会事務局長
3時間以上の部活指導手当の他は平日の部活指導の手当は無い。

▽質問
※スクールカウンセラー（ｓｃ）、※スクールソーシャルワーカー（ｓｓｗ）配置について。

教育長
現在町の委嘱、県の派遣制度によるｓｃおよびｓｓｗがあり教育相談・面談等している。

▽質問
平成21年度発足以来の当町における地域おこし協力隊の数の推移は。

産業課長
営農支援センタースタッフとして平成26年度に2名、平成27年度に1名、南信州担い手就農研修制度研修生として令和元年度に2名、令和3年度に1名令和4年度に1名の計7名、現在は継続雇用も含め、農業研修生3名、スポーツ振興、まちづくりに3名、熱中たかもりの地域商社に2名、高森町観光協会に1名の計9名である。

▽質問
地域おこし協力隊員の側からの高森町の感想は。

産業課長
協力隊員から伺っている高森町の魅力は、人が温かく、景色がきれいだ。果樹や田畑が身近にあり、環境が良く、食がうまい。などの感想である。

▽質問
昨年度できた町制定の地域おこし協力隊員の起業補助要綱にもとづく申請は何件か。

産業課長
申請は1件である。

▽質問
今後地域おこし協力隊制度を新分野で利用する計画は。

産業課長
令和6年度からは、熱中たかもりの地域商社と観光協会の業務に就いていただいている。

※スクールカウンセラーとは教育機関での心理に関する専門家のこと。

※スクールソーシャルワーカーとは児童生徒の生活相談の解決をはかる専門家のこと。

農事法人が管理する圃場（ほじょう）作業

地域に根差した新たな取り組み

町長　愛着を持って大きく育ってほしい

河合（かわい）　隆俊（たかとし）

当町では、小中学校の総合的な学習の時間を活用し、地域人材教育を行なっている。地域を知り、地域を学ぶことで、自発的に活動を起こすことを目的とした活動が5年目を迎えた。

▽質問
昨年10月に、高森中学校の2年生を対象とした「地域人材教育」のキックオフイベントが、岸川政之さんを講師に迎え開催された。岸川さんは、全国的に話題を呼んだ高校生が店舗を運営する「高校生レストラン」の仕掛け人でもある。講演会では、課題を解決する過程の面白さや、多くの人と協力して目標を達成することについて話された。生徒たちの反応や、3年生になった彼らの地域学習に変化が見られたか伺う。

教育委員会事務局長
講演会では、自分の意見や思いを発言する生徒の姿が見られたことから、生徒たちには主体的に考える姿が生まれつつあるという変化を感じている。

▽質問
5月25日に、地域の課題をビジネスの手法で解決していくことを目的とした「南信州ＳＢＰクラブ」が発足し、スタートの会が行われた。この組織の運営はどこが担うのか。また、クラブの活動費はどのように調達するのか伺う。

総務課長
高森町における参加者の窓口や運営サポートは、南信州みらい創生塾の運営と合わせ、一般社団法人熱中たかもりが行う。
ＳＢＰは、地域の課題をビジネスの手法で解決するもので、活動のための費用は自らで得ていく。

▽質問
壬生町長は町の将来像「なりたいあなたに会えるまち～日本一のしあわせタウン」を目指して「地域に根差した人材育成」をマニフェストの柱に据えて取り組んでいる。
ＳＢＰの取り組みについて「未来の大人」や地域の皆さんに期待することを伺う。

町長
高森町や南信州地域は、多くの地域資源や地域づくりのために頑張っている人たちがいる。「未来の大人」たちは、そうした人たちとの関わり合いの中から、地域貢献することや人を大切にする意義を学んで、地元に愛着を持って大きく育ってほしいと願っている。この活動の広がりが「未来の大人」である子どもたちを支えるばかりではなく、大人も地域づくりやまちづくりを考えるきっかけになってほしいと思っている。

※ＳＢＰ（ソーシャルビジネスプロジェクト）地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していく取り組み。

文部科学省ホームページ資料

議会改革推進特別委員会

第６回「しごと★未来フェア」出展

仕事に対する想いを学び、大きく成長した生徒たち

説明に耳を傾ける生徒

５月21日、中学２年生を対象にキャリア教育の一環として、「しごと★未来フェア」が開催されました。

町内外30の企業・団体が出展し、会社の概要をはじめ仕事に対する想いなど具体的な説明がされて、真剣な眼差しで聞く生徒の姿がありました。

今回、議会を身近に感じてもらうために、当議会も新たに出展しました。今年度から、中学１年生が使用している通学かばんは、議会が予算を認め町がプレゼントしたことなどを例に、議会と町の関係を説明しました。この他、町の仕事に対して「もっとこうして欲しい」という意見や要望を議員をとおして誰でも出せる請願や、議会の役割・議員の仕事についても説明をしました。生徒からは、「どんな議案があるの」「議員の仕事のやりがいは」などについて質問が出されました。

この「しごと★未来フェア」が、議会や議員を身近に感じられる機会となり、若者の職業選択のひとつとなることを願います。

（河合 記）

議会基本条例特別委員会

議会基本条例制定に向けて

基本条例について熱心に意見を交わす議員

早稲田大学マニフェスト研究所 中村 健 氏による勉強会

令和６年１月に開かれた、飯伊市町村議会議員研修会で、議会基本条例の必要性に気づき、当議会でも検討していくことになりました。

３月にまちづくり基本条例について、４月に議会基本条例の作り方について勉強会を行いました。議会基本条例は作ることが目的ではなく、作ったあとの運用や見直しが重要であることを共有しました。

９月の条例制定に向けて、５月から小委員会と特別委員会をそれぞれ２回ずつ開催し、素案をつくりながら進めています。

今後は、８月の例規審査委員会を経て、９月定例会に議案として提出し、審議できるよう取り組みを進めていきます。

（河合 記）

まちづくり基本条例はこちらから

総務民生委員会

下伊那厚生病院と懇談会

３月25日、下伊那厚生病院で、朔医院長をはじめ役職員の皆さんと４年ぶりに懇談し、地域医療課題や病院の事業概況について報告いただきました。

医療の担い手不足

医師の高齢化と医師不足は深刻で、豊丘と高森で廃院が相次ぎ、入院患者が急増し、入院できない事態が発生しています。そして、この地域が誇る救急医療・夜間休日診療も担えなくなってきています。

また、介護士不足により、隣のあさぎりの郷で現在ショートステイが運用できていない状況になっているとのことです。これもこの地域全体の課題です。

災害医療の備え

災害拠点病院は市立病院だけでしたが、災害時に特定の病院に患者が集中しないように、各医療機関の防災設備を整えて、停電や断水になっても診療を行うことが求められています。

現在の非常時の医療用水は０・６日分しかないため、現在、井戸を掘ることを検討しているとのことです。

感染症対策の備え

感染症の指定医療機関は、飯田市立病院だけでしたが、コロナのパンデミックで、各医療機関が対応を求められました。５類になった今でも、コロナは治まっていませんが、10年ごとに流行すると言われる「※新興感染症」に、今から備えることが必要になっていること。これらの地域課題に、行政の支援が求められている。とお聞きしました。

（原 記）

※新興感染症
局地的に、あるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症

総務民生委員会

社会福祉協議会と懇談会

やすらぎ荘に事務所を構える社会福祉協議会は町から委託を受け、福祉事業と介護事業を担っています。

６月12日、総務民生委員会は湯沢会長をはじめ各担当の方々と懇談を行い、業務内容と地域の福祉サービスについて説明を受けました。説明の中で、高齢化による介護問題・子育て家庭の支援不足・障がい者の社会参加など、地域住民に対して必要な福祉サービスの現状と課題について報告を受けました。

切実な想いを語る

中でもヤングケアラーについては、子どもが声をあげる場所がない・子どもがヤングケアラーだと自覚していないなどの理由から、その把握が難しいことや、相談は受けてもその先の受け皿の環境が整っていないのが課題としてあげられました。

また、地域のボランティアセンターでは、フードドライブの窓口を開設しており、お米や野菜などの食料品が、地域の方々から提供されています。必要としているみなさんに遠慮なく利用していただけるよう、環境も整えられています。担当者からは、このフードドライブを支えてくださる皆さんに感謝しているとの報告を受けました。

この他、社会福祉協議会の会費や赤い羽根共同募金へ協力してくださる方が減っていることなどについても、意見を交わしました。

（河合 記）

産業建設委員会

山の寺キャンプ場を視察

フリースペースのロフト

使い勝手のよい流し台に

敷地をキレイに整備

山の寺キャンプ場指定管理者の「前進合同会社」から、新たに整備した箇所の視察要望を受け、6月5日に現地へ向かいました。

主な改修箇所は、避難小屋として使い方の限られていた小屋内へ新たにロフトを設置し、「避難小屋兼みんなが集う場所」として活用できるようにしたことや、昨今のお客様のニーズに応え、管理者自らが重機を使ってサイトを増やした他、大きなテントやタープを設置できるよう、広いサイトも用意したことです。また今後は、バーコード決済への対応を検討中とのこと。

山の寺キャンプ場は、小川のせせらぎと小鳥たちのさえずりが心地よい、自然豊かな場所でした。

（小沢 記）

追跡!! あれは今どうなってるの？

質問

新型コロナウイルス感染症対策本部において令和５年４月１日以降の新学期における学校生活や学校活動に当たってはマスク着用を求めないことが基本となったが、教育現場での今後の対応をお聞きしたい。

【令和５年３月議会定例会】

答弁

県の対策本部からは従来通り令和５年年度末で、県立学校ガイドラインに基づき適切に対応するよう通知があった。新年度以降のマスク着用への考え方については改めて通知するとのこと。県からの連絡待ちである。

【教育長】

その後

令和５年５月８日の県の通知後、町教育委員会では各家庭にお知らせし、マスクの着用は個人の判断としています。しかし、感染症が認められた場合は、その状況により学校や保育園が判断をしています。

（佐々木 記）

議会だより編集特別委員会

議会モニター会議

議会だよりをより分かりやすく、より親しまれる内容にするため、令和２年３月に設置された「議会だよりモニター制度」。

５月10日、第３期目にあたる７名の皆さんにご参加いただき、モニター会議を開催。委嘱状の交付や広報誌についての説明などを行いました。

「カタイ・難しい・読みたくない」…そんな議会だよりからの脱却を目指し、モニターの皆さんの声もうかがいながら編集に努めます。

（小沢 記）

No.159 に寄せられた モニターさんの 声・声・声

議会回答をのせた全項目はこちらから

表紙についていただいたご意見を紹介します。

令和５年５月に第２期目の皆さんと開催したモニター会議で、モニターアンケートについてご意見をいただきました。そのご意見を参考に検討を行い、159 号からアンケート様式を新しくしました。
前モニターの皆さん、ご協力ありがとうございました。

にぎやかな元気な保育園も良いですが、改修前のおちついた静かな保育園と桜も哀愁があり良いと思います。

人がうつっているほうがいい。

人物が写しにくいというのはわかるが、やはり人が写っていないと寂しい感じがする。みんなが中身を見るかどうかというのは、まず表紙で決まってくると思います。開いてみたいかどうか・・・？承諾を得れば人物を写せるのであれば、承諾を得てでも、人物が写っていた方が親しみがわき、より多くの方が冊子を開いてみようという気持ちになると思います。

今までの歴史を感じる印象で卒園者の方は当時の事色々思い出だす綺麗な写真と思います。

ちょうど桜の花が咲いて、南アルプスをバックに良い表紙だと思います。
ただ、園児が元気に遊んでいる様子がほしいです。

未来を担う子供達が通う園舎が取り上げられ、改修後を期待出来良いと思います。

出来ればもう少し保育園全体が見える様な写真が撮れれば良いかと思いました。
全体が見える様に写真を撮影して、同じ画角で改修前の表紙と改修後の表紙で見比べられる様にするのも良いと思います。

※順不同で掲載しています（小沢 記）

みんなの声

一日のはじまりは

吉田　中塚（なかつか） なおみさん

ある自治体の「月に1度大人が子供へ声掛けをする取り組みが100回目を迎えた」とニュースで取り上げられていました。

平成26年に始まった「信州あいさつ運動」で「まずは家庭から、まずは大人からあいさつをする」を基本方針として地域全体で子供の成長を応援するというものです。子供は大人を見て育つと言われますが、家庭内や隣近所など、普段から挨拶をする姿があることで、子供だけでなく大人も地域の中でコミュニケーションが図られ、より子供たちを応援してもらえるのではないでしょうか。

そして世代を超え地域が一つになれば、地域の力を高めることにも繋がり、またそれは、近年各地で自然災害が起こる中で、地域住民が協力して助け合う「共助」として地域の防災力を高める事にも繋がると思います。

今日この頃

上市田　赤羽（あかはね） 完一（かんいち）さん

我が家の庭に小さなピンクの花が咲いている。「夕化粧（ゆうげしょう）」このネーミングに自然と頬が緩んでしまう。明治のころ観賞用として持ち込まれたものが野生化したらしい。

梅雨に入るとニイニイゼミが、盛夏にはアブラゼミが鳴いた。森ではクマゼミの音シャワーに癒された。小学生の夏休みには昆虫を集め空箱に虫ピンで留め、2学期に展示した。季節外れのコオロギを母が足してあった。

秋には真っ青な空高く赤トンボが乱舞し里山ではキノコが沢山採れた。近頃様子がおかしい。

「昔は良かったな」と孫に話したら「僕まだ生まれてなかったヨ」「そりゃそーダ」「今は今・昔は昔」時の流れを夙（つと）にかんじる。でもゲームだけでなく、路傍（ろぼう）の花に心が動く子供になってほしいと思う今日この頃である。

議　会 ホット情報便のお知らせ

放送日：毎月第3土曜日～1週間
7：00　9：00
13：00　17：00
19：00

8月以降の担当者は次の議員です

8月　三浦喜久夫
9月　木下　啓爾
10月　原　敏明

表紙の解説

6月22日、第34回やまぶき天伯峡ほたる祭りが盛大に開催されました。祭りのスタートを飾った竜口地区「龍神の舞」は7年ぶりのお披露目となり、龍が解き放たれたように力強く、勇ましい舞が見事に披露されました。また、天伯峡では、ホタルの力強い光が観る人の心を照らしていました。

このお祭りを支える実行委員会の皆さんをはじめ運営に携わってくださった皆さんに、心から感謝申し上げます。

（河合 記）

親から子へ 代々受け継がれる「竹の輪踊り」

あなたも議会を傍聴してみませんか？

次回の定例会は

9月です。

場所 役場3階議場
詳しくは議会事務局へ
☎35-9404

編集後記

議会だよりも今回で160号の節目を迎えました。その回数は、多くの先輩議員の工夫と努力を物語っています。

さて、6月の定例会では、下市田保育園の大規模改修工事請負契約締結の議案が出され、可決しました。

前号の表紙で紹介しましたが、新しい姿の完成が待たれます。これからも分かりやすい編集につとめ、議会の動きを伝えて参ります。

（小川 記）

古紙再生紙使用

～議会だよりをお読みになってのご意見・ご感想をお寄せ下さい～

発行／長野県高森町議会　責任者／岩口友雄　編集／議会だより編集特別委員会
〒399-3193 下伊那郡高森町下市田2183番地1　TEL0265-35-9404　FAX0265-35-8294

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。